

六甲全山縦走 スーパービジュアルパーフェクトガイド 2006

六甲全山縦走(55km)の迷いやすいポイントを写真で徹底解剖。携帯写真なので不鮮明ですが、「目線」にこだわりました。

(はじめに)

- ・写真撮影時の実際の時刻を入れています。距離感の目安にしてください。(ペースは標準ぐらいかと…)
- ・ここに紹介したポイント以外は、目立ちまくる道標があったり、それ以外は基本的に真っ直ぐだったりします。
- ・紹介文の中には個人の心境的なものも含まれていますが、必ず全ての人がそんな気分になるとは限りません。

ちなみにこのガイドはあくまで個人用に作ったもので、これで道に迷っても何の責任も持てません。

縦走に挑戦する人は必ず正確な地図を見て進みましょう。ちなみに全縦コースは年度や実施主体によっても変わります。

1		<p>8:26 スタート 須磨浦公園駅。(Pあり) 付近にコンビニはありません。 駅のすぐ裏が「鉢伏山」。 向かって左手の方から回り 込んで登っていきます。</p>	6		<p>9:04 鉢伏山山頂到着。 とくに展望はありませんが ここがいわゆるひとつの 第一山塊のピークとなります。</p>
2		<p>8:36 鉢伏山の登りはこんな感じで いきなり急階段が続きます。 11月でも汗をかきます。</p>	7		<p>9:09 鉢伏山から下りると見事に 道が3方に分かれています。 左は、旗振山からの巻き道 と分かりますが、真っ直ぐか、 右か…。 正解はどちらも同じ。 すぐ合流するのでならかな 右をとりましょう。</p>
3		<p>8:55 鉢伏山の山頂展望台を過ぎ、 道標に従い進むと、 旗振山(茶屋)に到着。</p>	8		<p>9:17 高倉台公園。 ここは真っ直ぐ通過。 ちなみにこの喫茶店には 「独特カレー」というのが ありますが…</p>
4		<p>8:58 旗振茶屋を後にして 鉢伏山へ向かいます。</p>	9		<p>9:18 階段で一気に山を下ります。 下は住宅街、その向こうには またすぐ梅尾山の登りが見え て、ちょっと嫌になります。 進む方向を見ておきましょう。</p>
5		<p>9:02 しばらく進むと、鉢伏山への 分岐があります。 左のまき道を進みたくなりま すが、ここは右の急登を選んで 山頂へ向かいます。</p>	10		<p>9:22 階段を下りたら陸橋を渡って 住宅街(高倉台)へ。</p>

11		9:25 ピーコックなどの商店の前を抜けていきます。この辺りは自販機豊富。突き当たり、写真の場所はやや左手に道が隠れてますが、まあすぐわかります。
12		9:28 道なりに進んで、陸橋で車道を渡ります。陸橋を渡れば、山沿いを左に進みます。
13		9:31 山沿いを進んでいると、右手に突如として現れる鬼階段。山登りで、これほど真っ直ぐな階段を登るのも珍しいかも。数百段の階段がモモを破壊します。
14		9:40 階段を登り少し行くと小分岐。ここは、梅尾山頂方面(左斜め)を登る。
15		9:41 梅尾山頂には木造の展望台があり、進んできた道が見渡せる。ここまでも随分来たことがわかる。
16		9:58 展望台の降り口方向へそのまま進み、しばらく尾根道を行くと横尾山の山頂だ。山頂からはいくつか小道が付いているが、進行方向に真っ直ぐ突き抜ける。

17		10:02 須磨アルプス(馬の背)への導入部。つい右手に登りたくなるが、左手に下っていく。
18		10:05 須磨アルプス核心部。とくに危ないわけではないが、つまづいたりしないよう注意。
19		10:18 岩場を抜けたところが東山。ここで直進の縦走路と、左手の方に斜めに下っていく道に大きく分かれている。 2006全縦コースは左斜面を下る。
20		10:26 眼下には、これから下りる住宅街と、その向こうに高取山が見える。六甲縦走前半はこのように「登り 下り 住宅街」を繰り返す。
21		10:32 東山から下山すると、こんな感じで車道に出る。ここからが難所の住宅越え。まずここは、 公園の向こう側(止まれのところ)を左折。
22		10:36 つきあたり、T字路を 右折。







23		10:40 坂を下ってバス停、信号を越えると、 右に曲がる小さな歩道 があります。そこへ進入。中はこんな感じ。
24		10:41 マンションの裏を進むと、T字路に出ます。メインは左へ進む感じで見落としやすいですが、ここを 右折 。
25		10:43 するとこんな感じで、複雑な構造の道になり、地下鉄の下を通り抜けます。
26		10:45 トンネルを抜けたら再び住宅街に。 まずここは右に。
27		10:47 左手に妙法寺を眺めて通過。 この後、やや大きな交差点があるが、直進。(自販機あり)
28		10:53 信号をこえて真っ直ぐ坂を上っていくと、緩い右カーブ(制限時速30kmの標識 が目印)。ここで右折して住宅街へ。

29		10:56 細い住宅の間の道を少し下りながら進み、モータープールの角を左折。 (縦走路の看板あり)
30		10:59 細い道を登っていくと、公園に出る。 ここを右に入り、いよいよ高取山の登山道へ。
31		11:20 三角点の案内に誘われるまま荒熊神社へ。 見晴らしのいいベンチがある。
32		11:31 鳥居を抜けて進む。
33		11:35 岩作りの「六甲全山縦走路」と書かれた大きな道標がある。ここは左でも直進でもすぐ合流する。左は高取神社。また、背後には山頂へ続く階段もある。
34		11:42 小屋やらを抜けて少し下ると、左の小道を示す六甲縦走路の道標がある。 が、2006全縦コースではここは曲がらずもう少し先へ。

35		11:43 トイレのある広場に入り トイレの奥から下山路へ。	41		12:05 いくつか小さな分岐があるが、 無視して道なりに進んでいく と、2車線の道に出る。 ここを 右 にとる。
36		11:52 そして、高取山を下山すると 再び住宅街へと突入する。 ここからがいよいよ最難関。 複雑&距離の長い住宅歩きで ちょっとやそっとじゃ覚えられ ない。	42		12:06 するとすぐに信号のある交差 点に出る。
37		11:53 一応こんな感じの矢印が 電柱などに貼ってあるが、 無い場所も多い。 まずは矢印に従い右方向へ。	43		12:06 横断歩道を渡ってガソリンスタ ンドの左手、 斜めに下りていく 道 へ進む。
38		11:56 少し進むと大きな車道に出る。 ここは真っ直ぐ 横断歩道を 渡って、一筋入ったところを 左に登る。	44		12:07 幼稚園の角は 左側 へ。
39		11:59 こんな感じの急坂を登り、 道なりに大きくUターン。	45		12:08 道なりに進むと、再び2車線の 道に出る。 ここを 左 に。
40		12:00 道は一端左に折れた後、 少し登って、写真のT字路に 出る。 ここを 左折 。	46		12:09 T字の交差点を 左 へ上がる。

47		12:11 道なりに大きく右カーブ。 コンビニがある。 菊水山に入ってしまうと その先は自販機や売店など 少なくなるので、必要なものは この辺でしっかり補充。
48		12:13 まず上がる人はいないと思う が、左手にはあがらず真っ直 ぐ進む。
49		12:13 横断歩道があり、 四角いカー ブミラーがある所で右へ 曲が る。
50		12:14 曲がった所には橋がある
51		12:14 まず登る人はいないと思うが、 橋を渡った正面にある階段に は登らず、左へ進む。
52		12:16 道は右に折れるような形に なっている。そのまま道なりに 登っていく。

53		12:17 線路の下をくぐって、 さらにまっすぐ登っていく。
54		12:20 高速の下をくぐる。
55		12:21 くぐれば 左 へ
56		12:23 ヘアピンのような曲がり角を曲 がり、道なりに下りていくと「ひ よどり商店」につきあたる。 ここを 左折 。
57		12:24 すぐに「ひよどりごえ駅」があ る。 ここは 線路を渡らずに、手前 側の駅舎の横にひそかに続く 道へ 入る。
58		12:31 駅の裏へ抜け、5分ほど久し ぶりの地道を歩くと、また舗装 路に出る。 出たら 左折 。

59		12:34 巨大な施設の横を進むと、上り坂の途中に 右手に細い地道 があるのでここに入る。(道標あり)
60		12:36 再び舗装路に出る。左へ進路をとり、川岸を進んでいく。
61		12:40 上空に自動車道が通る下を進むと、「鈴蘭台処理場」へ。ここはトイレが使えるらしい。 縦走路はこの処理場を左へ回り込むように進む。
62		12:43 真っ直ぐ道路を進む。間違っ左の猛犬注意の敷地へ侵入しない。
63		12:45 直進路は工事中。左手の地道から抜けられるようになっている。
64		12:51 あれがダムか。以前は無かったが、超でかい！！

65		12:58 そしてここからが地獄の登り。菊水山への取り付きである。 延々と急登が続き、誰もがこの縦走に挑戦したことを後悔するとともに、ゴールする自信を失うポイントである。
66		13:19 前方の空が開けて、ハイカーの声が聞こえはじめると本当に天国に到達した気分。
67		13:20 菊水山頂！！ 疲労感でしばらく動けません。
68		14:03 菊水山からはまたすぐ下っていい加減嫌になります。下り終えたところで陸橋で車道を渡り、また次の山へ。
69		14:04 鍋蓋山へ・・・ つらい登り返しが始まります。
70		14:18 この辺りまで来ると意識が朦朧となり、自分は何故こんなことをしているのかわからなくなってきました。

71		14:29 鍋蓋山 山頂到着
72		14:47 鍋蓋山を越えて大竜寺方面へ、しばらくならかな道が続きます。
73		14:48 大竜寺直前の分岐。どちらでも行けます。大竜寺に寄らないなら右手を進みます。
74		14:52 大竜寺の駐車場。自販機があります。
75		15:09 自販機の左手の車道を下ります。下ったところには山門があり、大会の日にはチェックポイントがあるらしいです。
76		15:19 大竜寺山門から交通量の多い車道を横切り、舗装路を下っていきます。しばらくすると細道に入ります

77		15:22 すぐに人で賑わう河原に出ます。 川を渡り階段を登ると市が原。ここには茶屋やトイレがあります。
78		15:26 茶屋から上流方向に進むと右手に登っていく分岐が。<縦走路>とも書いてあるがここは無視して真っ直ぐ進む。
79		15:27 いくつか、右に通じる道がありますが、全て「行き止まり」と書かれているので直進します。
80		15:28 前に小さな杭があり、右に「天狗道、トゥエンティクロス…」と出れば正解です。ここを右に登ります。
81		15:30 ここからいよいよ六甲全山縦走で最もハードな行程、摩耶山への登りが始まります。90分という登りは菊水山の3倍もあります。
82		が、今回の下見はここまで。下りのケーブルカーの時間が分からなかったので引き返しました。でも、この最大の難所を越えれば後はそれほど迷うポイントもなく、行程もなだらかなものとなります。ただ、距離的にはまだまだこれから。市ヶ原では半分にも満たないでしょう。関節系を痛めるのもほとんどはここから先だと言います。恐るべし、六甲全山縦走！！